

東部地域畜産経営技術推進指導協議会

西部地域畜産経営技術推進指導協議会

653号

富山県東部家畜保健衛生所

富山県西部家畜保健衛生所

2023.10.10

令和5年度 家畜伝染病防疫演習を開催 ... 1
高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)流行期に!! 対策を徹底ください ~北海道美唄市で今シーズン初となる野鳥のA型 インフルエンザウイルス簡易検査陽性を確認~ ... 2
県内への渡り鳥と高病原性鳥インフル エンザ(HPAI)監視体制 3
越境性動物疾病の動向と対策の状況 3
家畜の健康と畜産物の安全は給与飼料から ... 4
獣医学生が家畜保健衛生所で インターンシップ研修を実施 4

「獣医戦隊ブイレンジャー」見参! (農林水産省公式 YouTube「BUZZMAFF」企画) ... 4
畜産物の「食料自給率」と「食料国産率」 ... 5
富山県知事賞に(有)木島農場さん ~令和5年度 富山県畜産共進会(肉豚の部)開催~ ... 5
防疫情報 6
第64回全国家畜保健衛生業績発表会が 開催されました 6
新規採用職員の紹介 6
県畜産関係職員人事異動 6
お知らせ 6

令和5年度 家畜伝染病防疫演習を開催



座学（県農林水産部長挨拶）



実技訓練（鶏の殺処分作業）

10月3日、令和5年度家畜伝染病防疫演習を富山県民会館で開催しました。本演習は、高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)や口蹄疫等の越境性動物疾病が万一、県内の畜産農場で発生した際に、迅速かつ確かな防疫措置を講じることができるよう、防疫体制の周知・点検を図ることを目的として市町村や関係機関が一堂に会し、毎年開催しています。

今年度は、これから流行期を迎え、高い警戒感を持った対応が必要となるHPAIが農場で発生した場合を想定して、座学と防疫作業の実技訓練を交え、初動対応や連携体制、各々の役割の確認を行いました。

今後、市町村（魚津市、高岡市）や各農林振興センター（富山、新川、高岡、砺波）との個々の防疫演習開催も予定しており、万一の際に、迅速かつ円滑な防疫対応が行えるように、強固な防疫体制の構築・維持に努めたいと思います。

（東部家保環境課 水木課長）

高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)流行期に!! 対策を徹底ください

～北海道美唄市で今シーズン初となる野鳥のA型インフルエンザウイルス簡易検査陽性を確認～

昨シーズンは、国内において過去最速の10月28日に岡山県と北海道における発生以降、本年4月までに26道県84事例の飼養家さんで高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の感染が確認され、約1,771万羽が殺処分の対象になりました。

今年度も渡り鳥の飛来シーズンを迎え、去る10月4日に北海道美唄市で回収されたハシブトガラスの死亡個体1羽の簡易検査では、今シーズン初となるA型インフルエンザウイルスの陽性反応が確認されています。今後、本事例は、遺伝子検査で高病原性鳥インフルエンザであるか確認が行われます。

海外の飼養家さんにおけるHPAIの発生は、昨年秋以降これまで未発生地域であった南米各国での感染拡大が確認されるなど全世界で認められており、近隣諸国では韓国で75件、台湾で73件、またヨーロッパで1,270件確認されています(令和5年9月4日時点)。ヨーロッパでは、通常春から夏にかけてHPAIの感染は沈静化しますが、2021年秋から2023年春にかけては、夏季にも野鳥および家さんにおいて多数の感染が確認されています。また、アメリカおよびカナダにおいても同様にシーズン開始時期が明確に区分できない状況となっています。

近年、HPAIの野鳥および家さんにおける発生時期が早く、終息が遅くなることで対策が長期化する傾向にあります。自農場のマニュアル、飼養衛生管理基準をもとに点検を行い、特に以下の7項目については常に点検し、本病の発生予防に万全を期してください。

✓高病原性鳥インフルエンザ発生予防に特に重要な対策

- 衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒等 (項目13)
- 衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用 (項目14)
- 衛生管理区域に立ち入る車両の消毒等 (項目15)
- 家さん舎に立ち入る者の手指消毒等 (項目20)
- 家さん舎ごとの専用の靴の設置及び使用 (項目21)
- 野生動物の侵入防止のためのネット等の設置、点検および修繕 (項目24)
- ねずみ及び害虫の駆除 (項目26)

カッコ内の番号は、「飼養衛生管理基準(鶏その他家さん)」の項目番号



発生予防対策の重要なポイント (出典：農林水産省一部改編)

対策の見落としはありませんか？

出入時対策

- ・消毒、更衣前後の交差のない動線
- ・明確な境界線の確保
- [作業者のほか、外部事業者も対策を徹底]

野生動物対策

- ・農場内の整理、整頓
- ・鶏糞等の搬出口の覆いの設置
- [一見隙間がなさそうな鶏舎も入念に点検]

入気口対策

- ・野鳥避けの設置
- ・フィルター設置も検討
- [普段は目が届きにくい場所の対策も重要]

【自己点検の実施について】

令和5年10月～令和6年5月までの期間、家さん飼養者の皆様におかれましては、毎月1日を目途に飼養衛生管理基準の遵守状況(上記7項目)について自己点検を実施し、不備があった場合には速やかに改善するようお願いいたします。点検結果につきましては、毎月、管轄家畜保健衛生所に報告をお願いします。

【早期通報徹底のお願い】

死亡羽数が通常の2倍に増加した場合や産卵率の低下、元気消失などの普段と異なる症状がみられた場合には、ただちに管轄の家畜保健衛生所までご連絡ください。

HPAIに関する情報



農林水産省 HP

(東部家保防疫課 古林獣医師)

県内への渡り鳥と高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)監視体制

日本へは毎年冬季に多くの渡り鳥が飛来します。昨シーズン県内では11種21羽(内、渡り鳥7種8羽)の死亡野鳥について鳥インフルエンザの検査を実施し、3種4羽(内、渡り鳥1種2羽)からHPAIウイルスが検出されました。ウイルスを大陸から運ぶとされる渡り鳥以外に留鳥の猛禽類からも検出されています。これは感染個体を捕食する過程で感染したと考えられるため、監視対象を渡り鳥に限定せず幅広く設定し、HPAIウイルスの早期発見に努めています。特に、今シーズンは、世界的なHPAIの発生拡大を踏まえ、9月～10月を「早期警戒期間」と位置づけ、監視体制の強化を行っています。

昨シーズンの県内での死亡野鳥検査結果

鳥種	検査羽数	陽性羽数	鳥種	検査羽数	陽性羽数
オナガガモ	1	0	スズメ	5	0
マガモ	1	0	カラス	5	0
キンクロハジロ	1	0	留鳥		
オオハクチョウ	1	0	ノスリ	2	1
コハクチョウ	2	2	ハヤブサ	1	1
ホシハジロ	1	0	小計②	13	2
ミツユビカモメ	1	0	合計(①+②)	21	4
小計①	8	2			



コハクチョウ
撮影：(一財)自然環境緩急センター



ノスリ 撮影：小林 靖英氏
(写真出典：環境省)

(東部家保検査課 藤井主任)

越境性動物疾病の動向と対策の状況

令和5年9月14日、農林水産省が都道府県の家畜衛生の担当者等を対象として、最新の情報、知見等を共有するとともに、全国的な防疫体制の強化を目的に「越境性動物疾病防疫対策強化推進会議」が開催されました。

越境性動物疾病とは「国境を越えてまん延し、発生国の経済、貿易、および食料の安全保障に関わる重要性を持ち、その防疫には多国間の協力が必要となる疾病」のことで、口蹄疫、豚熱、アフリカ豚熱、高病原性鳥インフルエンザなどがあり、ここでは口蹄疫、アフリカ豚熱、豚熱の動向と対策の状況をご紹介します。

1. 口蹄疫

平成22年に宮崎県で発生が確認されて以降、国内では発生はありませんが、周辺国では依然として発生が続いています。口蹄疫ワクチン接種が行われている韓国では、令和5年5月11日に2か所の牛農場で口蹄疫の発生が認められ、これまでに11か所の農場で発生が確認されています。再発の原因としては、近年、同国でのワクチン接種率が下がっていたことが指摘されています。

2. アフリカ豚熱

平成30年に中国においてアジア初の発生が確認され、その後アジア18か国・地域に感染が拡大しています。一部の国ではアフリカ豚熱ワクチンが開発、使用されていますが、接種後に大量死が発生する等の問題点が指摘されています。現在、東アジアでアフリカ豚熱が発生していないのは、日本、台湾のみとなっています。但し、我が国に違法に持ち込まれた畜産物4件からアフリカ豚熱ウイルスが分離されており、新型コロナウイルス感染症による入国規制が緩和され、訪日外国人旅行者等も増加していることから、侵入リスクが一層高まっています。

3. 豚熱

8月30日の佐賀県での発生を受け、農林水産省は豚飼養農場における飼養衛生管理の徹底を8月31日に九州各県に通知し、改めて、指導徹底を要請しています。また、九州全域を飼養豚へのワクチン接種推奨地域に指定、9月19日には福岡、佐賀、長崎、大分県、27日には鹿児島、宮崎、熊本県でワクチン接種が開始されました。

これらの越境性動物疾病の我が国への侵入を防止するため、国は検疫探知犬を5年間で約7.8倍の140頭に増頭、家畜防疫官を526名体制に増員、また令和2年以降、韓国からの全ての便に対して、検疫探知犬又は家畜防疫官による検査等を行って、水際対策を強化しています。また、都道府県においては、毎年防疫演習を実施し、迅速な防疫体制の維持に努めています。

一方、農場ではこれら病原体の侵入防止のために、飼養衛生管理基準の遵守徹底が大切です。また、これらの疾病のまん延防止には、飼養している家畜に特定症状が認められた場合の早期通報が重要となります。

(東部家保防疫課 宮澤主任)

越境性動物疾病
対策強化推進会議



農林水産省 HP

家畜の健康と畜産物の安全は給与飼料から

飼料の安全性の確保は、畜産業における重要な要素です。安全な飼料の使用は、家畜や家きんの健康、生産性そして畜産物の品質に影響します。以下は、飼料の安全な使用に関する重要なポイントです。

1. 適切な飼料の選定

飼料は家畜の栄養状態を維持するために重要です。日齢・生産ステージなど成長段階、妊娠の有無などの状態に応じて給与します。必要な栄養素が過不足なく含まれ、バランス良く配合されているか確認することが必要です。

2. 給与量の適正管理

適正な給与量の管理が重要です。過剰な量の飼料の給与は、(メタボリックシンドロームのような)健康上の問題や無駄なコストになりかねません。逆に量が不十分な場合は、生産性の低下や栄養失調による発育不良を引き起こします。

3. 定期的な検査とモニタリング

飼料の品質や安全性を保つため、定期的な検査とモニタリングが必要です。異物混入や微生物汚染、配合成分の過不足分析検査を行うことで、安全基準に適合しているかを確認します。

そのため、県では飼料の安全性を確保する観点から、

①畜産農家に対する飼料の安全使用巡回指導：

- ・飼料の使用状況を調査し、適正使用と給与記録の整備状況等を確認

②販売業者等に対する立入検査及び栄養性・安全性分析：

- ・広域流通配合飼料の栄養成分検査(粗たんぱく質、粗脂肪、カルシウム、リン、粗繊維、粗灰分)
- ・地域流通飼料の安全性分析検査(肉骨粉、カビ毒)
- ・県内で生産された稲WCSの安全性分析検査(カビ毒)を実施し、畜産物の安全性確保に取り組んでいます。



飼料の安全使用巡回指導
(東部家保指導課 柿澤係長)

獣医学生が家畜保健衛生所でインターンシップ研修を実施

家畜保健衛生所では、獣医学生に職業意識の向上のための機会を提供するとともに、家畜衛生及び畜産行政に対する理解を深めていただくことを目的として、毎年インターンシップ実習生を受け入れています。

今年度は9月に4名の学生が東部家保に、1名の学生が西部家保にて、家畜保健衛生業務について研修を行いました。研修内容は、鳥インフルエンザのモニタリング検査や死亡した家畜の解剖、細菌学的検査や病理学的検査、豚熱のワクチン接種など多岐にわたり、公務員獣医師の役割や家畜保健衛生業務の重要性を認識いただけたと思います。今回来られた学生さんは、今後獣医師としての進路について、じっくり思案されるかと思いますが、この研修をきっかけに富山県への就職を目指していただけることを期待しております。

(東部家保 清水次長)



簡易放牧の巡回指導

「獣医戦隊ブイレンジャー」見参！(農林水産省公式 YouTube「BUZZMAFF」企画)

本企画は、農林水産省が産業動物獣医師確保の施策の一環として、産業動物獣医師という職業及びそれを取り巻く状況を農林水産省公式 YouTube「BUZZMAFF」を通して情報発信するもので、産業動物獣医師に興味を持ち、なりたいという若者を増やすことを目的としています。

若い世代(小学生～大学生)にも認知してもらうため「戦隊モノ」というコンセプトのもと、産業動物獣医師の衰退を狙う敵組織(軍団 ZERO)と獣医戦隊ブイレンジャー(農林水産省職員が変身できる設定)との戦いを描き、その中で、産業動物獣医師の働く現場(家畜保健衛生所、動物検疫所等)への訪問や農林水産省の施策の紹介等が行われます。

9月12日公開の第1話(QRコード参照)ではコンセプトをお伝えし、第2話以後、現場で働く産業動物獣医師とブイレンジャーの活躍を配信予定とされています。今後、順次公開されますので、ぜひご覧ください。



第1話「立ち上がり、ブイレンジャー」



BUZZMAFF

(東部家保環境課 水木課長)

畜産物の「食料自給率」と「食料国産率」

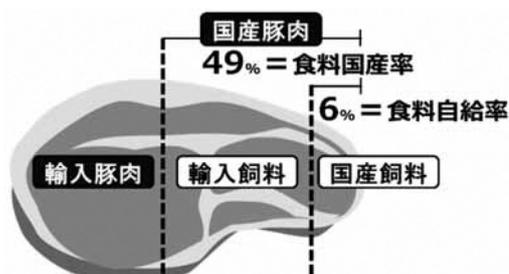
「食料自給率」は、食料の国内消費に対する国内での生産割合を示したものです。つまり、国全体で見るときに、私たちが消費した食料に対して国産がどれくらい占めているかを表す数字です。日本の現在の食料自給率は、カロリーベースで38%、生産額ベースで58%となっています（令和4年度概算値）。これは、諸外国に比べ低い水準にあります（カロリーベース（令和2年度）：アメリカ 115%、フランス 117%、イギリス 54%）。ちなみに「食料自給率」は都道府県別にも公表されており、富山県は77%（令和3年度概算値）で、最も低い東京都では0.5%となっています。

国内の食生活は、「食料自給率」の公表が始まった昭和40年代と比較すると、洋風化等が進み、自給率の高い米の消費が減少する一方、飼料や原料を海外に依存している畜産物や油脂類の消費が増大しています。畜産物は、消費拡大に伴い輸入割合が増加するとともに、飼料の海外への依存度が高まっている状況です。

肉類は、牛肉で約4割、豚肉で約5割、鶏肉で6～7割が国産です（「食料国産率」、解説は後述。）。しかし、令和4年度の食料自給率（カロリーベース）は、牛肉で11%、豚肉で6%、鶏肉で9%となっています。これは、国産であっても輸入飼料によって生産された相当分は除くこととしているためです。肉類の生産では、とうもろこしなど飼料の多くを海外からの輸入に依存しており、国内で生産可能な部分を厳密に評価するという観点から、肉類など畜産物では、「飼料自給率（畜産物全体で26%）」を考慮して計算されています。

一方で、「飼料自給率」を反映した数字では、畜産農家の増産等の努力が反映されず、国産の肉を購入している消費者の実感とも合わないという課題がありました。そこで、令和2年に策定された「食料・農業・農村基本計画」から、飼料の由来に関わらず国内生産について国産として計算する「食料国産率」も併せて公表されています。

畜産の「食料自給率」を上げるためには、国産飼料の増産により「飼料自給率」を向上させていくことと、畜産物の国内生産の増加を通じた「食料国産率」の向上の両方を達成していくことが重要となります。



豚肉の「食料自給率」と「食料国産率」
（「食料需給表（令和4年度）」をもとに作成）



食料需給表
農林水産省HP

（東部家保環境課 水木課長）

祝 富山県知事賞に(有)木島農場さん ～令和5年度 富山県畜産共進会(肉豚の部)開催～

9月15日、射水市の富山食肉総合センターにおいて、令和5年度富山県畜産共進会（肉豚の部）が開催され、雌と去勢各1頭の2頭1組、県内10農場から45組90頭が出品されました。

日本食肉格付協会富山事業所の白鳥所長をはじめ3名の審査員による厳正な審査の結果、黒部市農協の(有)木島農場さんが、優等賞1席（富山県知事賞）に選出されました。講評で、「雌、去勢の差がほとんどなく、モモ張りが特によく、ロース芯及び周囲筋の脂肪交雑も非常によく認められ、切開面の各部位の大きさ、形、バラの厚さが特にそろっていて、優等賞1席に相応しい。」と高く評価されました。

また、「今年は夏前から猛暑が続いて、豚舎環境の管理が非常に難しい中、各生産者が高い肉質の豚を生産されており、これまで培ってきた高い肥育技術を維持してもらいたい。」と総評されました。



受賞された木島さんと
優等賞1席を受賞した枝肉

（東部家保防疫課 先名係長）

令和5年度 富山県畜産共進会（肉豚の部）審査結果

区分	市町村	受賞者
優等賞1席	黒部市	(有)木島農場
優等賞2席	魚津市	シムラ 東部養豚センター
優等賞3席	黒部市	南進
1等賞1席	小矢部市	シムラ 小矢部養豚

防 疫 情 報

県内の主な家畜伝染性疾病の発生

病 名	畜 種	発生日	戸 数	頭羽数	備 考
乳頭糞線虫症	牛	9月12日	1	1	
豚胸膜肺炎	豚	9月7日	1	1	
豚パストレラ症	豚	9月12日	1	1	
ロイコチトゾーン症 (届出伝染病)	鶏	9月11日	1	9	
		9月13日	1	4	

県内における野生いのししの豚熱 PCR 陽性事例 (令和5年9月7日以降) (10月4日現在)

	発見状態	発見又は捕獲日	発見又は捕獲場所	成長区分	性 別
1	捕獲	9月4日	氷見市森寺地内	成獣	雄
2	捕獲	9月11日	氷見市熊無地内	成獣	雌
3	捕獲	9月11日	氷見市熊無地内	成獣	雌

【参考】令和元年7月30日以降の検査結果 (単位:頭)

区 分	陽 性	陰 性	計
死亡いのしし	23	3	26
捕獲いのしし	72	2,182	2,254
合計	95	2,185	2,280

第64回全国家畜保健衛生業績発表会が開催されました

9月28日～29日、東京都の銀座プロッサムにおいて、第64回全国家畜保健衛生業績発表会が開催され、全国で選抜された48題の発表が行われました。農林水産大臣賞は、第一部(家保の運営・企画推進に関する演題)で、高病原性鳥インフルエンザ発生時の迅速な殺処分方法を検討した「成鶏出荷用ラックとコンテナを使用した新たな殺処分方法の検討と実践(茨城県)」、第二部(家畜の保健衛生に関する試験及び調査に関する演題)で、サルモネラ検査の時間短縮とコスト軽減を試みた「様々な創意工夫により効率的に取り組んだ牛のサルモネラ検査対応(北海道)」が選ばれました。

(東部家保検査課 西井課長)

新規採用職員の紹介

《柳 直人(やなぎ なおと)》 配属:東部家畜保健衛生所 指導課 獣医師
 出身地:三重県 出身校:岐阜大学(臨床繁殖学研究室) 趣味:バラ栽培
 <メッセージ>

前職は、岐阜県内の市役所で家畜診療と畜産行政に従事していました。この経験を活かし、多方面から畜産業を支えていけたらと思います。飼料高に価格安など厳しい状況が続いていますが、富山県の畜産業の発展にお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願いたします。



県畜産関係職員人事異動

10月1日付けで、以下のとおり県の畜産関係職員が異動しました。

氏 名	新 所 属	旧 所 属
五箇 大成	農林水産総合技術センター副主幹研究員	農業技術課副主幹普及指導員
稲葉 真	農業技術課副係長	農林水産総合技術センター主任研究員
柳 直人	東部家畜保健衛生所獣医師	新規採用

☆ お 知 ら せ ☆

催 事 等	期 日	場 所
北陸三県和牛子牛市場、県畜産共進会(和牛子牛の部)	10月19日	北陸三県家畜市場(金沢市)
越中とやま食の王国 秋フェスタ 2023	10月21～22日	富山産業展示館(テクノホール)
食品安全フォーラム in とやま	11月2日	パレブラン高志会館

発行所 富山県東部家畜保健衛生所 http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
 〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電 話 (076) 479-1106 F A X (076) 479-1140
 編集者 水木 亮史(富山県東部家畜保健衛生所)